

「ネコ科の魅力」写真コンテスト ポスター賞受賞作品 テンちゃん（イエネコ） [鳥取県境港市] ©シビ

P.2 **企画展** 令和6年10月5日(土)～11月10日(日)

「ネコ」 ～にゃんと！クールなハンターたち～

P.3 **企画展** 令和6年11月30日(土)～令和7年1月13日(月・祝)

幕末土佐の天才絵師 絵金

P.4 [自然] コラム 虫送り実盛人形が持っていた袋からまさかの虫が！

P.5 [人文] コラム 館蔵資料に垣間見える文禄・慶長の役の闇

P.6 [美術] コラム 美術部門 52年のあゆみ

P.7 [学習支援] コラム 鳥取県立博物館のアウトリーチ事業

P.8 休館のお知らせ・鳥取県立博物館の新しい姿





企画展

「ネコ」～にゃんと！クールなハンターたち～

令和6年10月5日(土)～11月10日(日)



(主催)ネコ展実行委員会、読売新聞社

ネコはかわいい

ネコは、人類にとって最も身近な動物のひとつです。その最大の特徴は「かわいい」こと。イエネコを含むネコ科の動物は、そのほとんどが「鼻先が短く丸い顔」「大きな目」「ツメがひっこむ手足」「やわらかい体」といった、かわいい特徴を備えています。そしてこれらの特徴は、ネコ科の動物が森の中での「待ち伏せ」「忍び寄り」を得意とするハンターであることに関係しているのです。

森の中で「かわいい」特徴が進化した

ネコ科は、イヌ科やクマ科などとともに「食肉目」という分類群に含まれます。食肉目の祖先は、約6000万～3400万年前(暁新世～始新世)に北米やヨーロッパ、アジアに生息していた絶滅動物「ミアキス類」だと考えられています。当時は地球全体が暖かく広範囲が森林に覆われており、この動物たちはおもに森林の中でくらしていたようです。

その後の世界的な寒冷化により、森林が減少し草原が広がりました。食肉目の中では、イヌ科が草原に進出し、群れで走って獲物を追い詰める、というタイプのハンターとして進化していく一方、ネコ科は残存する森林の中で進化していきました。

森の中は暗く込み入っているため、集団で獲物を追いかけても逃げたり隠れたりされやすく、効率よくありません。そこでネコ科の動物は、単独で行動し、物陰に潜んで待ち伏せたり、静かに忍び寄ったりして獲物を捕らえる、というタイプのハンターとして進化してきました。

大きな目は光をたくさん取り入れることができ、暗い森の中や夜間でも獲物をしっかりと見ることができます。ツメがひっこむ手足は、音を立てず、静かに獲物に忍び寄ることができます。やわらかい体は獲物に飛



真剣な表情もかわいいツシマヤマネコ(長崎県対馬市/©ねこりん)

びつき組み伏せるのに都合がよいです。鼻先が短いので顎を動かす筋肉とキバとの距離が近く、強い力でキバを獲物に突き刺してとどめを刺すことができます。単独行動では仲間の助けが無いので、できるだけ一撃で確実にしとめることが重要なのです。

このようにして、森の中で単独で狩りをするネコ科は「かわいい」特徴を進化させていったのです。

様々な角度から「ネコ」を紹介

展示では、このようなネコ科動物の体の特徴を、実物標本や映像とともに解説します。また現生のネコ科動物全41種類の標本や写真、日本のヤマネコのフィールド研究の実際、イエネコにまつわる最新の研究成果など、様々な角度から「ネコ」を科学的に紹介します。本展覧会を通して、ネコのことをもっとよく知り、もっと好きになっていただけたら幸いです。

(学芸課 ^{いちさわ けい} 一澤 圭)

- 休館日: 10月7日(月)、21日(月)、28日(月)
- 観覧料: 一般/700円(前売・20名様以上の団体/500円)
※70歳以上・大学生以下・学校教育活動での引率者・障がいのある方・難病患者の方・要介護者および介護者は無料

関連イベント

- ハロウィン限定企画「ネコになる日。」10月26日(土)・27日(日)
開館時間中開催(申込不要)ネコのコスプレをしてネコ展を楽しもう。



イエネコの巨大模型(名古屋会場の様子)



ネコ科に近縁なディニクティス実物化石(神奈川県立生命の星・地球博物館蔵)



希少なマライヤマネコ本剥製(鳥取県立博物館蔵)



企画展

幕末土佐の天才絵師 絵金

令和6年11月30日(土)～
令和7年1月13日(月・祝)

(主催) 絵金展実行委員会、読売新聞社

謎の天才絵師とも評される土佐の絵師・金蔵は、幕末から明治初期にかけて数多くの芝居絵などを残し、「絵金さん」の愛称で、地元高知で長年親しまれてきました。同時代のどの絵師とも異なる画風で描かれた芝居絵屏風は、今も変わらず、高知県下の夏祭りで飾られ、闇の中で蠟燭や提灯の灯りに浮かび上がるおどろおどろしい芝居の場面は、見るものに鮮烈な印象を残しています。今回、高知県外では半世紀ぶりとなる大規模な「絵金」展が全国を巡回します。

絵金こと金蔵は、1812年(文化9)に、高知城下で髪結いの子として生まれたと伝わっています。幼いころから画才のあった金蔵は、高知城下に住む絵師たちに学んだのち、18歳のときに江戸へのぼり、河鍋暁斎の師としても知られる狩野派の土佐藩御用絵師・前村洞和のもとで3年間修行しました。帰郷後は、土佐藩家老の御用絵師となりましたが、33歳頃に城下を追放になりました。一説には贋作事件に巻き込まれたとも伝えられています。その後、弘瀬柳栄(のち雀七)を名乗り、土佐藩の各地で数多くの芝居絵屏風や絵馬提灯などを手がけますが、活動の実態はほとんど明らかではないため、「謎の天才絵師」とも呼ばれています。1876年(明治9)に亡くなるまで、門人や絵の手ほどきを受けた者は数百人に及んだといわれています。

この展覧会は、幕末の土佐に生き、異彩を放つ屏風絵・絵馬提灯などを残した「絵金」の類稀なる個性と、その魅力を「絵金の芝居絵屏風」「絵金と周辺の絵師たち」「高知の夏祭り」の3章構成で紹介します。

第1章の「絵金の芝居絵屏風」では、歌舞伎や浄瑠璃の名場面を描いた絵金の代表作を紹介します。そのな



「浮世柄比翼福妻 鈴ヶ森 二曲」 隻屏風・紙本彩色 香南市赤岡町本町一区

かでも傑作とされる香南市赤岡町の4つの地区が所蔵する芝居絵屏風は、4カ年に及ぶ修理が完了したばかりのもので、鮮やかな色彩とダイナミックな画面構成を十分に楽しむことができます。

第3章の「高知の夏祭り」では、高知県内の各所で行われている夏祭りの雰囲気会場に再現しています。たとえば高知市朝倉・朝倉神社の夏祭りでは、境内の参道に山門型の「絵馬台」が6台組み上げられ、それぞれの表裏に4隻ずつ、計24隻の芝居絵屏風をはめ込んで飾ります。参詣者は頭上に飾られた屏風絵を見上げながら、その下をくぐっていきます。展覧会では、こうした屏風絵の飾り方を忠実に再現しており、高知の夏祭りに来たような感覚を味わうことができます。



あべのハルカス美術館での展示風景(2023年)

山陰初開催となる本展は、その画業とともに、高知の文化として人々に深く溶け込んでいる絵金の魅力を、数々の代表作により紹介します。

(学芸課 来見田 博基)

- 休館日: 月曜日、12月29日(日)～1月3日(金)
- 観覧料: 一般/800円(前売・20名様以上の団体/600円)
※70歳以上・大学生以下・学校教育活動での引率者・障がいのある方・難病患者の方・要介護者および介護者は無料

関連イベント

- 美剣士・平井権八と鳥取の伝統芸能Ⅰ「因幡の傘踊り演舞」
演目: 因幡大津絵 平井権八ほか(国府町因幡の傘踊り保存会 美歎支部)
11月30日(土) 10時～10時30分 (申込不要)
- 《特別講座》土佐の夏祭りを彩る「絵金」
講師: 横田恵氏(創造広場「アクトルランド」学芸員)
11月30日(土) 11時～12時 (申込不要)
- 美剣士・平井権八と鳥取の伝統芸能Ⅱ「円通寺人形芝居伝承館見学ツアー」
1月11日(土) 13時～14時30分(円通寺人形芝居保存会(現地集合・現地解散))
※12月19日(木)から電話(0857-26-8044)にて申込受付



「伊達鏡阿国戯場 累二曲」 隻屏風・紙本彩色 香南市赤岡町本町一区



虫送り実盛人形が持っていた袋から まさかの虫が！

「虫送り」という行事をご存じでしょうか？農家を悩ます農作物の害虫を駆除し豊作を祈願する行事で、日本各地の農村で初夏の時期に行われています。

かつては全国各地で盛んに実施されていましたが、農業の普及に伴って害虫自体が減ったことや、過疎化・少子高齢化の影響も相まって途絶える地域が年々増えています。夜間にたいまつを焚き、唱えごとをしながら害虫を送るものや、藁人形に害虫をくくり付けて送るものなど様々なものが知られています。この藁人形ですが、平安時代末期の平氏の武将「斎藤実盛」をかたどっていて、「戦の最中に実盛の乗っていた馬が田んぼの稲株につまづいて倒れたところを源氏の武将に討ち取られたため、その恨みから害虫と化して稲を食い荒らすようになった」という言い伝えからきています。実盛をかたどった藁人形に害虫の入った袋をくくり付けて川などに流すことで、害虫による厄災を祓ったのです。

馬の上にもたがった実盛の姿をかたどった藁人形
(鳥取県八頭郡若桜町春米地区、鳥取県立博物館所蔵)



この虫送りの行事ですが、鳥取県東部、氷ノ山の麓にある若桜町春米地区でも「サネモリさん」と呼ばれて行われてきました。春米地区の虫送りには別の伝説もあって、「源氏に追われた実盛が、因幡から氷ノ山を越えて但馬に逃げのびる途中に春米を訪れた。害虫の被害に苦しんでいる村人の姿を見て哀れに思った実盛は、『わしが但馬に越すけえ、虫をみんな持って行ってやる』と言って去った。その後害虫の被害が治まった」といわれています。

春米地区では一時途絶えていたこの虫送り行事を復活させたことがあって、当時作った藁人形が当館に収蔵されています。先日この人形を調べる機会があり、指にくくり付けられた虫の袋を昆虫担当の私が見ることにになりました。

袋は全部で4つありましたが、そのうちの一つに驚くべきものが入っていました。なんと日本ではなく“アメリカ原産”の外来種の昆虫が入っていたのです。

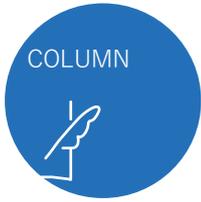
写真の灰色の昆虫はイネミズゾウムシ *Lissorhoptrus oryzophilus* (甲虫目、ゾウムシ科) というアメリカ原産の稲の害虫で、1976年に愛知県で初めて確認され、1983年には鳥取県に侵入したことが分かっています。つまりこの人形が作られたのが1983年以降であることが、袋の中の昆虫から判断できます。後日、民俗担当の福代宏 学芸員に聞いたところ、1996年に虫送り行事を復活させた際に作成した人形であることが分かりました。

日本の伝統行事の資料中にアメリカ原産の外来種が入っていたことに、人間活動の業の深さを感じるとともに、当館に民俗や昆虫など様々な分野の学芸員がいるからこそ判明した事実、総合博物館であることの重要性を強く感じる出来事でした。

(学芸課 鶴智之)



実盛の藁人形が持っていた虫袋(左上)、イネミズゾウムシ成虫の標本(右上)、袋の中に入っていた昆虫(下；イネミズゾウムシ9匹の他に、コムツキムシ科の甲虫の一種1匹もまぎれて入っていた) (鳥取県八頭郡若桜町春米地区、鳥取県立博物館所蔵)



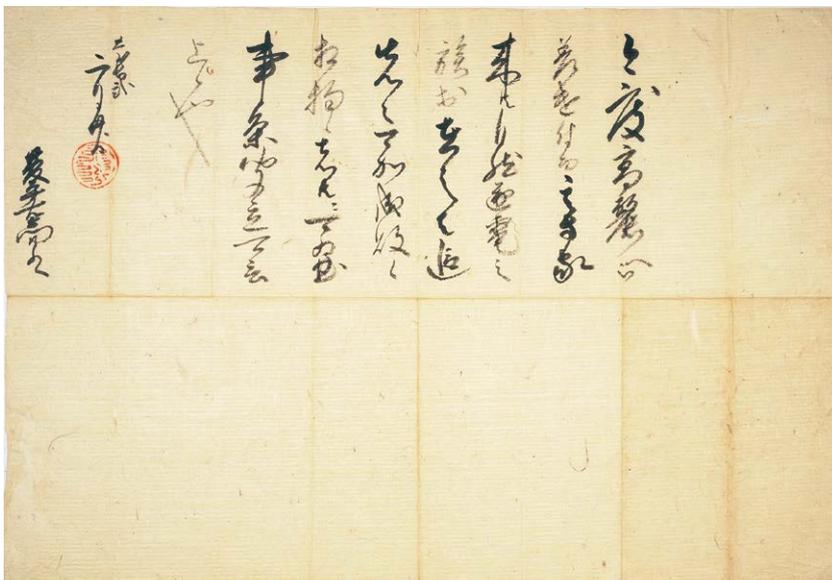
館蔵資料に垣間見える文禄・慶長の役の闇

天下を統一した後の豊臣秀吉は、「文禄・慶長の役(1592-1598)」という六年にもわたる対外戦争を号令しました。文禄・慶長の役に関わる品物は武士たちにとっても重要なものであり、当館の所蔵の武家の古文書中にも残されています。本稿では、それらの資料を用いながら、文禄・慶長の役という対外戦争の実態を考えてみましょう。

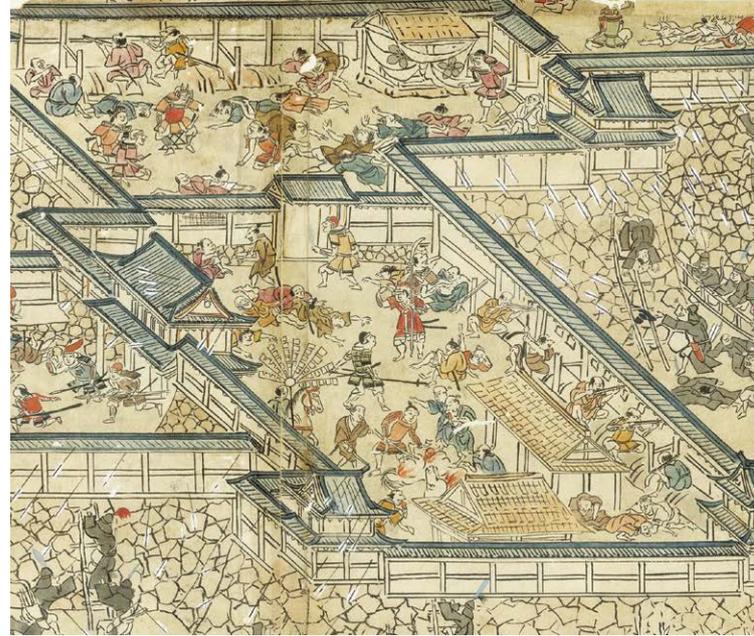
水軍・菅一族にとっての文禄・慶長の役

鳥取藩士菅家は淡路国出身の武士で、操船に長けた一族でした。菅達長は豊臣秀吉の天下統一事業に参加し水軍を率いて活躍、一万五千石の大名になります。文禄・慶長の役では明・朝鮮の水軍に対抗するため、菅一族にも出陣命令が下ります。

朝鮮半島における水軍の仕事は多岐にわたっており、海戦以外にも輸送や船団の護衛、城を守ることもありました。慣れない海外での任務は菅一族の戦意を削いでいました。秀吉は達長に宛てた朱印状の中で、達長の家来の中に逐電(逃亡)するものがいたら成敗し、庇いだてしない様に論じています【写真1】。これは、日本軍の水軍に逃亡者がいたことを暗示しています。それを裏付けるように、佐賀鍋島家に仕えていた田尻鑑種という武士は、壹岐国において逃亡した水主(船乗り)の火あぶりを見た記録しています(田尻家文書)。



【写真1】菅達長に対して逃亡する家臣への厳しい対応を命じた豊臣秀吉の朱印状(「菅家文書」当館蔵)



【写真2】朝鮮蔚山攻城図(第一図5扇部分 佐賀県立図書館所蔵)に描かれた蔚山城の籠城戦

伯耆の武士にとっての文禄・慶長の役

文禄・慶長の役に際して、西伯耆を治める吉川広家や宮部長熙・亀井茲矩・垣屋恒総・南条元清・木下重堅らの大名たちに率いられ、因幡・伯耆の武士たちも数多く大陸渡海しました。伯耆国淀江(現・米子市)を本拠地としていたとされる福頼吉蔵は、慶長の役には渡海し、明・朝鮮国軍の攻勢に際して蔚山城に籠城して戦いま

した。その甲斐あってか蔚山城は援軍の到着まで持ち堪え、明・朝鮮国軍を敗走させることに成功しました【写真2】。しかし、この籠城戦で吉蔵の「家中七人」が戦死し「道具類」を「悉く」失ってしまいました(慶長三年五月十四日付榎本元吉書状(「宮本家文書」)当館所蔵)。吉蔵の父・左衛門尉も文禄の役で負傷しており、福頼一族にとって大陸渡海は悪夢のような体験だったはずだ。

文禄・慶長の役に関する資料の多くは武功を誇るものとして受け継がれてきましたが、ここで紹介した資料のように戦争の惨状を窺い知ることができるものも含まれています。

(学芸課 山本 隆一郎)

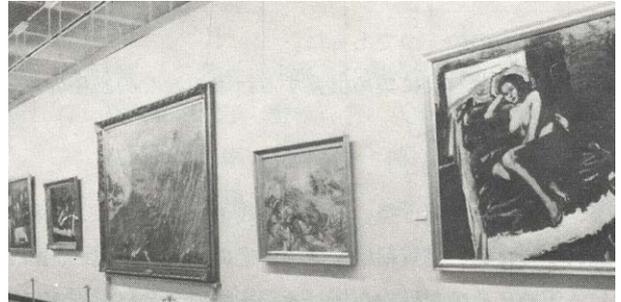


美術部門52年のあゆみ

半世紀を超える52年という時間。人間の年齢であれば折り返し地点を過ぎ、それまでの経験を振り返りながら、その先を考えるようなタイミングでしょうか。或いは、全体を俯瞰して様々なことが見えてくる時期と言えるかもしれません。

鳥取県立博物館は、県民の教育及び文化発展に寄与するための総合博物館として、今から52年前の1972年10月1日に鳥取城跡のなかに開館しました。その大きな特徴の一つは、前身の科学博物館時代には無かった美術に関する展示活動が新たに加わったことです。科学博物館時代の本県には、全国巡回規模の本格的な美術企画展を開催できる広い特別展示室が無かったため、それを希求する県民の声を受けて施設内容が構想されました。開館を記念する特別展覧会も大規模な「郷土美術名作展」であったことがそれを端的に示しています。さらに、同展に際して東京のタイ国大使館から前田寛治の代表作《海》を借用し、本県内初の展示を実現したことは、その後のコレクション形成の方向を象徴的にあらわしていたのだと、今あらためて感じます。

開館した年の年度末時点では20点に満たなかった美術部門の所蔵作品ですが、その後1979年3月に設置された美術品取得基金による前田寛治作品の集中的収集や、石谷家をはじめとする県内の蒐集家からの大口の作品寄附によって飛躍的に所蔵点数は増えていき、それらを紹介する常設展示も充実していきました。そして、1997年からスタートした県立美術館の整備に向けた作品収集活動では、前田寛治はもちろん、佐伯祐三や里見勝蔵など前田と関係のあった作家の作品についても対象とし、その結果、本県を代表する美術家の仕事をその周辺を含めて多角的に見つめ得るコレクションが形成されつつあり、その考え方で収集は今も続いています。



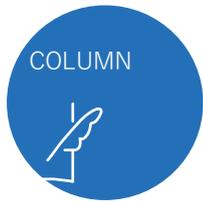
1972年10月 郷土美術名作展 前田寛治《海》他展示風景

教育普及活動も開館以降徐々に規模を拡大し、今では美術部門の重要な活動要素となっています。大きく分けると、コレクションをいかに活用するかという視点からの多様な活動と、県内外のユニークなアーティストの仕事の特集的に紹介することと併せてワークショップなどの参加型プログラムを展開する活動とがあるでしょう。さらに近年は、美術部門のスタッフやボランティアがファシリテーターとなって子どもたちや大人たちと自由におしゃべりしながら作品を鑑賞する対話鑑賞の取り組みに積極的に注力しています。

そして、2025年3月30日には倉吉市内に鳥取県立美術館が開館します。このことにより本県のアート分野の調査研究、展示、普及活動は次のステージへ移行することとなります。これまでは、この地域の人々がどのような美術表現を残してきたのかを後世に伝える使命を果たすことを第一に、本県のアートの流れをたどることのできるコレクションの形成に力を入れてきましたが、今後は「国内外の優れた美術」及び「同時代の美術の動向を示す作品」という収集方針を新たに加えて、これまでの鳥取県ゆかりの枠を超え、幅広く、魅力的な美術作品を紹介できる常設展示を目指していきます。このことは、この地域に暮らす人々がもっと多様な美術表現に気軽に触れる権利を保障すると同時に、作品を鑑賞する人々の対話がさらに豊かになっていくことにつながると考えています。

以上、とても大雑把に52年のあゆみを俯瞰してみました。時系列での詳細な歴史は、2023年3月に刊行した『50年のあゆみ』をご覧ください。これから本県のアート部門スタッフは、52年という時間を糧にしながら、この先の未来の時間をどう作っていくのかを、多様なアートを通じて考え続けるのだと思っています。

(美術振興課 三浦 努)



鳥取県立博物館のアウトリーチ事業

博物館の学習支援事業

当館では、多くの方々が学校教育、生涯学習の中で博物館を利用し、郷土の歴史や自然、芸術に関する知識を深めていただきたいと考えています。そのため体験的の活動を通じて文化意識を高めていただくための多様な事業があります。館内での展示解説や講座のみならず、学校や地域に出張サービスを行っており、この出張サービスは当館における大きな業務になっています。令和5年度はコロナウィルス流行の影響が残り中止になったものもある中、博物館が主催する移動博物館・美術館が2回、学校等の依頼により実施する出前展示が6回、学校・公民館をはじめ多様な機関から申し込みがある学芸員派遣が106回、博物館外でも一部行う普及講座が80回行われました。

アウトリーチ事業

最近ではほとんどの博物館が行っている学校や地域への出張サービスは、アウトリーチと呼ばれています。これは博物館に限らず、公的機関や文化施設全般が行っています。公立博物館のあるべき姿として、県下の学校等各団体に等しく学習機会提供することが課題になります。当館はその学習機会の提供とともに博物館利用者の裾野を広げるために小中学校、高校、特別支援学校、公民館などに出張訪問して講演や出張展示を行っています。今年度は県西部も含め多くの申し込みがあり、出前展示などは昨年の2倍以上になる見込みです。



完成した展示を見学する様子

出前展示

「博物館がやってくる 絵図でみるとっとり」

博物館では青翔開智中学校・高等学校において6月20日(木)から27日(金)まで鳥取藩が作成した絵図の出前展示を行いました。博物館では貴重であり大型であることから取り扱いが難しい絵図の複製製作を開始し、今回はその複製絵図の初展示になります。

出前展示を行った青翔開智中学校・高等学校は、廊下をはじめ多くの壁が木製でパネル展示できる環境になっています。今回は窓と窓の間のスペース等も有効に使い展示を行い、歴史・地理の学習の振り返りなどに活用いただきました。

今回は絵図の展示をしやすい環境でしたが、通常、各学校団体等の施設の状況に対応して、様々な器具を使い工夫しながら展示を行っていますので、機会があればその様子もお伝えできればと思います。

かしむら けんじ
(学芸課 榎村 賢二)



校舎の壁面形状に合わせた絵図の展示



展示設営の様子



休館のお知らせ

令和7年2月17日(月)から4月30日(水)まで休館します。

鳥取県立美術館が開館することに伴い、美術分野の移転と館内の資料移動等のため休館します。ご不便をおかけいたしますが、ご理解・ご協力をお願い申し上げます。

鳥取県立博物館の新しい姿

鳥取県立博物館は、
令和7年5月1日(木)から再開します。

鳥取県の過去を知り、ともに未来を考えていく博物館

鳥取県の「宝蔵」



鳥取県立博物館
TOTTORI PREFECTURAL MUSEUM

「宝蔵」について

19世紀半ばの鳥取城内には貴重な美術品や歴史資料を管理保管するための「御宝蔵」という建物が実在していました。この蔵には、現在県外の機関が所蔵する国重要文化財や、県立博物館に引き継がれている初代藩主池田光仲直筆の和歌などが収められており、博物館の前身

美術分野移転後の鳥取県立博物館は、「鳥取県の『宝蔵』：鳥取県の過去を知り、ともに未来を考えていく博物館」を理念に、次の5つを使命として取り組みます。鳥取県の自然史、歴史、民俗、美術工芸の博物館として再スタートし、新たに「とっとり的美(仮称)」の展示も計画しています。新しい鳥取県立博物館の活動にご期待ください。

【収集・保存】 鳥取県の過去(自然史、歴史、民俗、美術工芸の資料)を、県民一人一人の財産として収集し、適切かつ安全な環境の下で、保存します。

【調査研究】 資料の調査研究を継続するとともに、館内外で円滑・適切な調査研究活動が展開できる機能や環境の整備に取り組みます。また、調査研究の成果については、積極的に県民に還元します。

【展示活動】 資料を専門分野ごとに詳しく、分かりやすく解説することはもとより、異なる分野が融合した博物館として、多面的な考察や視座を提供します。また、学芸員や研究者等との対話や交流を通じて、学びが深まるよう努めるとともに、資料は、いつでも誰でも活用できるようにし、県民の主体的な学びに貢献します。

【学習支援】 「ふるさとキャリア教育」の推進や「教育DX」への対応など、新たな社会的ニーズに確実に対応するとともに、博物館から離れた地域でも、学習の機会が提供できるよう努めます。

【地域連携】 資料の利活用により、鳥取県の新たな価値と魅力を見だし、国内外へ発信し、交流と発展を進めます。また、県民・地域との共同連携による「魅力ある県立博物館」となることで、文化観光やまちづくりなど、多様な地域の活力向上に貢献します。

とも言えます。この「御宝蔵」を理念の根幹に据えることで、県民の財産である資料をいつまでも保存し続けることを表明します。「宝蔵」は単に資料を納めておくだけの蔵ではなく、収集した資料を適切に保存・管理し、誰もがいつでも活用できる新しい蔵です。

鳥取県立博物館ニュース No.38

令和6年(2024年)9月25日発行

編集・発行 鳥取県立博物館

住所 〒680-0011 鳥取市東町2丁目124番地

TEL 0857(26)8042(代)

FAX 0857(26)8041

URL <https://www.pref.tottori.lg.jp/museum/>

E-mail hakubutsukan@pref.tottori.lg.jp



博物館 HP



- 入館料：常設展／一般180(150)円
()内は20名様以上の団体料金
- 開館時間：9時～17時(入館は16時30分まで)。一部、19時(入館は18時30分)まで開館の土日あり。詳細はお問い合わせください。
- 休館日：毎週月曜日(祝日の場合は翌平日が休館日)国民の祝日の翌日(土、日、祝日の場合を除く)年末年始(12月29日～1月3日)
※具体的な休館日等は、ホームページでご確認ください。



- JR鳥取駅からバスで
 - ①100円バス「くる梨」緑コース「①仁風閣・県立博物館」下車すぐ
 - ②ループ麒麟獅子「②鳥取城跡」下車すぐ
 - ③砂丘・湖山・賀露方面行「西町」下車、約400m
 - ④市内回り岩倉・中河原方面行「わらべ館前」下車、約600m
- JR鳥取駅からタクシーで…約10分
- 鳥取砂丘コナシヨコから…鳥取駅行連絡バス「西町」下車、約400m
- お車で…鳥取自動車道・鳥取ICまたは鳥取西ICより約15分
※当館駐車場21台駐車可能・満車の場合は県庁北側駐車場【無料】へ

お客様の満足の「MORRIX」へ…
MORRIX
株式会社モリックスジャパン
TEL 0857-23-3641

本社 鳥取市南東町2-3-6
倉吉店 倉吉市東町5-29 倉吉コミュニケーションセンター1-3号
<http://www.morrrix.co.jp/>



日本通運株式会社 鳥取営業課
TEL 0857-28-0202